

## 被表彰団体及び個人

〈「星空の街・あおぞらの街」全国大会表彰〉

## I 環境大臣賞受賞者

## 1. 団体部門

ひがしちくしがくえんこうとうがっこうりかぶ  
東筑紫学園高等学校理科部 (福岡県)

「夜空の明るさ」についての研究を9年間継続して行い、その結果を、全国高等学校総合文化祭自然科学部門や天文学会などで発表している。

その際、自作機器を用いて「夜空の明るさ」を数値化し、気象条件や環境要因が地上数百メートルの大気に及ぼす影響について科学的に分析したり、北九州市内の「夜空の明るさ」の地図を作製するなど市民に身近な大気環境や光害についての関心を高める活動を行っている。

## 2. 個人部門

たかはしすすむ  
高橋 進 (滋賀県)

こどもエコクラブでの大気環境保全教育、スターウォッチングへの参加、県内の科学系博物館のフェスティバル等数多くのイベントを開催するとともに、20年以上継続して変光星を中心とした天体観測活動を行っている。

また、星空観察活動の成果を公表し、地域の環境教育の指導的な役割を果たしている。

## II 「星空の街・あおぞらの街」全国協議会会長賞受賞者

## 1. 団体部門

きそほしかい  
木曾星の会 (長野県)

美しい星空環境を守り、後世に残すことを目的に「天の川観察会」を継続的に開催し、行政やマスコミを共催、後援とするシンポジウムを通して、街路灯や夜間照明などの照明改善を積極的に働きかけ、光害防止の啓発に努めている。

また、観察会にあわせ小中学生を対象とした望遠鏡や星座早見盤等の工作教室を開催し、次世代を担う子どもたちの環境教育活動を行っている。

## 2. 個人部門

いしかわきよひろ  
石川 清弘 (北海道)

全国星空継続観察に20年以上継続して参加しており、勤務する職場では、担当職員として多くの市民に星空観察会を実施し、ユニークなイベントを通して環境教育活動を行っている。

また、太陽黒点と星食の観測を32年間継続して観測し、その結果を国立天文台等の関係機関に継続して報告し、職場の天文台で太陽黒点と昼間に見える星を公開するなど天文普及活動を行っている。